

令和6年度第1回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和6年6月27日（木） 15時～17時20分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して17名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ

（齋藤市長）

委員の皆様には、日頃から本市の行政全般にわたり御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本会議は、本市の最上位計画である第2次石巻市総合計画を着実に推進するため、各施策の成果や方向性を評価していただく重要な会議でございます。

令和4年度に始まった本会議も3年目を迎え、今年度は前期基本計画の中間年度に当たる令和5年度の内部評価について、市民目線・専門的視点から、その妥当性などを検証いただきます。

特に今年度は、令和8年度から開始する後期基本計画の策定作業に入ることから、その展開につなげていくうえで、皆様からいただく評価は大変重要となりますことから、是非、忌憚のない御意見を賜りたいと存じます。

結びとなりますが、委員の皆様におかれましては、引き続き、本市の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝御活躍を心からご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

（会長）

今年の4月に民間の有識者グループである人口戦略会議から、日本全体の4割にあたる、744の自治体が消滅可能性にあるという分析結果が報告されました。

残念ながら、石巻市も2050年に消滅可能性があるという指摘されております。この調査の消滅可能性は、対2020年比で、2050年までに、20代から30代の女性が半減するというふうに定義されております。

2050年までに、石巻市の20代から30代の女性は5,562名になるとされています。

つまり、現在は20代から30代の女性が石巻市で1万人以上、日々の生活を営んでおります。

果たして消滅するという表現が適しているのでしょうか。人口が減少したとしても、今、1万人以上の方が生活されている。その生活の質を上げていくこと、一人一

人の暮らしを守るために、どのようなまちづくりをするのがいいのか考えることが大切だと考えています。

確かに、現在私たちは、かつてない人口減少の中にありまして、この厳しい状況を乗り越えることが求められています。

市役所の方の前で言うのは恐れいりますが、行政だけではどうにもならないというふうに考えております。1人でも多くの市民に参加してもらい、市民協働のまちづくりが今、求められております。

そして、協働を実現するためには、取組や活動を共有し、共感を生み出すことが非常に重要です。共感がなければ、市民の協働は成り立ちません。

今日の議論を通じて皆様が感じたこと考えたことを、ぜひ皆さんの周りの大切な方と共有していただきたいと思います。それがまちづくりの第一歩になると思います。

また、まちづくりの課題は、今回の資料も分厚い資料だったと思いますが、非常に多岐にわたっております。すべての課題に対して平等に取り組むことはできないと私は考えています。だからこそ、各課題に多角的に、そして様々な視点からアプローチすることが必要です。本日御参加の委員の皆様には、各々の専門的な立場から忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

これからの議論が石巻市の未来にとって有益なものになるように、私もつたないですが、一生懸命進行して参ります。

皆様の積極的な御参加をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 実績値の修正及び目標値の変更について（資料1：政策企画課）

実績値の修正及び目標値の変更について説明

(2) 総合計画推進会議における評価・検証について（資料2、資料4：政策企画課）

内部での評価方法、外部評価として委員が評価する2つの視点、会議の流れについて説明

(委員)

お願いがあるのですが、昨年から委員をやっているのですが、評価の流れは大体分かるのですが、説明の仕方で、資料が多いためどの資料を使うか明確にしたうえで、もう少しゆっくりと説明をしていただきたいと思います。

(3) 第2次石巻市総合計画の令和5年度達成状況について

(資料3、資料4：政策企画課、各担当課)

【内部評価結果の昨年度との比較】

昨年度の評価結果と今年度の内部評価結果について政策企画課から説明

【第1章 第1節～第3節】

(委員)

住民自治組織について、指標の考え方として「住民自治組織の設立を目指す」となっているのですが、実際に設立できている地区は合併前の旧町で、旧市内はなかなか設立できていないと見受けられます。

また、住民自治組織を作ったから良いというわけではなく、実際にどのような活動をするか、そのようなところが分からなかったので教えていただければと思います。

(地域協働課)

住民自治組織について、現在本庁地区6地区、4支所及び6総合支所地区の計16地区で設立を目指しております。平成22年から事業を進めており、令和3年度までは4地区でしか設立しておりませんでした。そこから、令和4年度に2地区、令和5年度に1地区が設立され現在7地区となっております。

また、令和5年度中に設立に向けた準備会が稲井、河北及び雄勝の3地区で設立しており、今年度中の設立を向けて現在準備作業を行っております。

なお、残りの特に旧本庁地区、石巻、山の手、住吉及び釜に関しても、準備会設立に向けて動き出しており、今後設立に向けていこうと感じております。

市が目指している部分について、近年どうしても人材不足、人口減少というものがあまりまして、単体の町内会ではなかなか活動が出来かねている状況の町内会も多く、小さい枠から大きな枠の自治協議会という形で自治組織を作って、小さい町内会の人材不足などを含む課題の世話をしていくということを現在目指している形となります。

もう1点、冒頭の庄子会長のあいさつにもありましたが、やはり地域と行政がともにまちづくりをするということで、16地区各々の住民自治組織と、行政が一緒に関わりあってまちづくりを続けていきたいというのが市の最終的な目標となっております。

(委員)

第2節について、移住者に係る数字は出ているのですが、マイナスの部分の数字を教えてください。

また、外国人住民数が示されているのですが、この目標値の内訳やどこの国から来ているのか、そしてこの目標値の妥当性、人数的な部分や類似団体と比較してどうかというところをお示しいただきたい。

(SDGs 移住定住推進課)

本KPIの実績は移住対策事業を活用して移住した人数をとらえており、その後に移動があった否かについては計測していない状況であります。

(地域振興課)

外国人の内訳であります。実績値1,606人の内訳のうち、一番多いのがインドネシアで425人、その次がベトナムで346人、続きましてミャンマーで195人、その後、フィリピン、中国というような順番であり、約40か国から移住または技能実習生として石巻にいらっしゃっているという状況でございます。

最終的な目標値ということでございましたが、現在令和7年度1,520人となっており、令和5年度実績ですでに超えておりますので、今後その目標についても見直していくことになるかと考えております。

(委員)

防災関係について、防災訓練及び災害メールの配信等については、これはいいことだと思いますので継続してやっていただきたいと考えておりますが、高齢者を対象とした場合どのような形で行っていくのかということをお伺いしたいと思います。

また、昨年県で実証実験としてポケットサイン、原子力防災の関係アプリを使った事業を行っていましたが、その事業と石巻市の関連についてお伺いしたいと思います。

(危機対策課)

高齢者対応について、現在の災害情報発信サービスではLINEの利用が多いのですが、この「災害時メール配信サービス」の登録人数の中には、LINE及びメールに加え、電話及びFAXというものもございます。高齢者の方については、事前に登録をいただいて、電話で情報発信もしている状況でございます。

また、近年高齢者の方のスマートフォン所持率も上がってきておりますので、市としてそれぞれ各公民館において、スマートフォンの使い方教室といったものも進めている状況でございます。

ポケットサインについては、ダウンロードしたときに1人5,000円分のポイントが付与されるため、その印象が非常に強いと思います。もともとは原子力災害において避難する際の情報が入っているというところからスタートしているのですが、どうしても5,000ポイントという印象が強く、使用後にアプリを削除してしまった等の状況が発生しております。そのため、県においては全市町村共通でこのポケットサインを活用し、避難所での情報収集や避難者の体調管理等で活用できるということのPRを進めているところです。本市においても、今度の避難訓練の際には、このポケットサインを避難所で活用して参りたいと考えております。

(会長)

ありがとうございます。時間の関係上、各グループの質問は1点程度でお願いできればと考えております。

(委員)

住民自治組織の話がすでにでしたが、回数や件数が増えるというのを優先しがちというのが、行政の仕事ではあると思います。全ての地域で設立を目指すというのは当たり前だと思うのですが、目標値を下回ったからといって、これが悪なのかというところは、実は地域づくり・コミュニティづくりの面では非常に重要な面だと思います。コミュニティづくりに関しては様々な要素が絡み合うので、丁寧に進めなければならないものであり、件数がKPIの目標値に達していなくても、頑張っているという報告があれば十分なのではないかなとも思います。件数をKPIにしてしまうと、できることイコールやったことになってしまわないかが素朴な疑問です。同意されないと進まな

いのは当たり前、地域ではやりたくないのは当たり前というのがまずあるので、達成率は結構高くなってきているのですが、濃淡があっても当たり前で着実に内容を詰めていくことが重要なのではないかということを、グループで話を聞いた中で考えました。

もう1点気になったのが、意識醸成というところですが、結局、行政から言われたから作るというような形になっていないか、どのような意識醸成をしているのか、あと他地域の例を情報共有することによってより作るべきだという動きにつながっているのかということが非常に気になるところです。

あと1点お話しさせていただくと、例えば外国人移住者や移住定住に関して、データなど内訳は分かる資料が我々の手元に無いというのが実態です。この中で検証するというのは結構難しいことなのかなと思います。データが見えるか見えないかということは情報共有の中では非常に重要で、後期計画を策定するという段階で私達が検証を行っているのですが、データが無い中でABCという大きな数字だけで見てしまうと、議論の発散や空中戦に繋がり、時間がない中で評価は妥協で終わってしまうのではないかと感じます。

(地域協働課)

先ほど、行政がこういった形で設立に向けてサポートをしているかというお話がありましたが、設立するまでのノウハウというよりも、プロセスの中で、各地区の課題というものを皆さんにお伺いし、その課題の解決方法の1つとして、住民自治組織を作ることによる解決方法というものを、すでに設立されている住民自治組織の実際の活動内容等も含め、住民の方に提供しているという状況でございます。そこから、住民の方が「私どもが抱える課題と同じ課題を、すでに設立している住民自治組織では何らかの形で解決に向かっている」ということに気づき、その気づきに基づいて、設立に向けていくというような状況となっております。

ですので、設立してくださいということでは無く、今の本市のやり方はあくまで、こういった事例がありますよという情報提供、そういったものを主として支援している状況でございます。

(会長)

目標値KPIについてですが、昨年もKGIと対応していないとか、ひとつひとつKPIを変えなければいけないというところはあったのですが、今回は記載のKPIで検証していくということで決まっておりますので御理解いただければと思います。

次期計画において、KGI及びKPIをしっかり対応できるような指標を設けていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(副会長)

私どもの班も様々な意見がでて、現在のKPIで良いのか、また、細部にわたってどのように検証していくのかということが話題になりました。

時間があれば生の声を聞いていただきたいのですが、今回の評価は先ほど庄子会長がお話ししたように、現在の計画に基づく評価なので、現在の指標に基づいた評価をせ

ざるを得ないのではないかと考えます。

次回計画を立てるときは、委員の皆様から頂く色々な意見を勘案して、施策に生かしていかないと前に進まないのではないかと思います。

(会長)

たくさんの御意見があると思いますが、ここで共有できない部分につきましては、委員評価表を後ほど提出いただくこととなりますので、そちらに記入いただきますようお願いいたします。

(委員)

移住について、やはり内訳が分からないと評価しづらいと感じております。評価に移住者が13人増とありましたが、課題の中で、若い世代の人口減少が著しいと記載があります。この移住者13人の男女比率、年齢層がどのような状況であったか、可能であれば教えていただきたいと思います。

そもそも移住定住に関しては、私どもの班でも様々な意見が出ましたが、やはり長く住んでいただきたい方々なので、もっと長く住んでいただくために、仕事があるとか、ずっと住んでいられる環境を整えるとか、何かそのような形で色々対策があるのではないかと感じております。

(会長)

来週までに資料を御用意させていただく形でよろしいでしょうか。その方が、数字の話でありますので良いと思います。

評価において私も気になっているのがKGIのところで、市民の方々の評価が少々低いところですので、委員の皆様が感じられているところはそのようなところにも反映されているのかなと感じます。

(委員)

私どもの班で話題にあがったのが、自治会の在り方でございます。先ほど2班の方がお話ししたように、無いよりはあった方がよいというのは私も同感ですが、そのあり方が現在少々問題になっているのかなと感じます。

要するに、加入率はどうなのかというところが疑問です。私の地区では辞める方もいらっしゃる。

今、自治組織を中心に様々な補助金や負担金を集めている実態があるのですが、加入されていない方から集められない状況というのもでてきておりますので、加入率について、もし分かれば教えていただきたいと思います。

(地域協働課)

直近3年間の市内全域の加入率の平均が約78%から79%となっております。

加入率の調査を始めたのが令和2年度末あたりからなのですが、大体4年間で78%～80%の間を行ったり来たりしている状況です。

【第1章 第4節～第6節】

(委員)

公共交通ネットワーク充足率が100%となっているところ、利用できる場所は良いのですが、地域により、全然利用できないところに関しては、すでに諦めているというのが現状であると思います。

(委員)

震災伝承について、門脇小学校や大川小学校が整備されましたが、非常に利活用されていてとても良いと考えております。これまで何度もお客様を連れていきましたが、素晴らしい施設ができたなと感じています。今後、これを市民の皆様に見ていただくことが指標になっていくのか、それとも市外の方々に見ていただくことに重きを置くことになるのか、いずれかになると思うのですが、意外と市外の方はたくさんいらっしゃるような気がします。

防災教育の一環として、修学旅行や教育旅行で活用していただいているようなのですが、もしかしたら意外と市民の方がまだ見られていないのではないかと感じており、そのような方に対し、子供たちを含め大人の方にも見ていただく機会を多くしていけるような発信があれば良いのではないかと感じております。

(震災伝承推進室)

お話いただきましたとおり、市外からは教育旅行や企業研修などで多くの方にお越しいただいております。

御意見をいただきました市民の方の御来訪について、我々もなかなかデータは掴んでいないのですが、やはり最大の被災地ですので、地元の皆様にも、この震災の教訓と経験を再確認していただくために遺構にお越しいただくというのは大切なことであると考えております。また、市内の小中学生が遺構を訪れることがないのではないかとという御指摘もございます。震災伝承推進室においても、モニターツアー等開催はしているのですが、予算に制限もございます。教育委員会においても、その話の中では、色々と連携しながら学校として遺構に来ることができるような取組を考えていくこととしており、我々も一緒になって取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(会長)

石巻専修大学の卒業生がそれぞれの施設でアンケートを取ったのですが、8割が県外から、約2割が市民の方という結果でした。

他の施設をみても来場者は3年がピークで、その後は市民利用を促していかないとなかなか難しいと思います。学校教育に組み込んでいくというお話をありましたので是非御検討いただければと思います。

(委員)

男女共同参画についてですが、この単語が生きていること自体おかしいという時代になっておりますので、国が女性参画率のような目標値を設定しているから致し方な

いのですが、石巻はもうこのような概念は古い、当たり前にも男性女性が活躍しているような街になっていったら良いなと考えております。この会議にも女性が少ないという意見が内部で出ましたので、女性をもっと増やしていければ良いなと思っております。

公共交通ネットワークについては、K P I の設定がそれぞれバスの本数や地域住民の満足度というようなものが設定されているので、これはこれでデータとしてよろしいのかもしれませんが、私がいる業界では、駅前に来られた方がそこから先の2次交通をどうしますかということが非常に問題になっております。したがってそのような部分、そこから先の公共交通に近いものとして、事故等ネガティブな要素もあるのですが電動バイクなど色々なものがあって、そのような要素も考慮したうえでの、次の段階では目標設定を変えていっても良いのかなと感じました。

震災遺構について、私は被災地の震災遺構を大体拝見しましたが、石巻の震災遺構はおそらく一番優れていると考えております。K P I の目標値はまだ到達していません。これは残念ながら入場料を頂く部分がございますので、旅行エージェントに敬遠される傾向があります。しかし、私としては600円支払う価値はあると思いますので、そこは御理解いただきたいとお願いしております。とりわけ、門脇小学校の1つ1つの文に記載されているものは、十分に見るに値する価値がありますし、じっくり読みこむとあそこで2時間、あつという間に過ぎてしまいますので、ここは自信をもってP Rをしていただきたいなと考えております。

(地域振興課)

男女共同参画という言葉につきましては、計画が出来ているものなので名前はそのままとなります。

本会議の女性委員の方で、女性人材リストに登録されていない方が万一いらっしゃいましたら、ホームページでいつでも登録できますので、よろしくお願いしたいと思います。

(震災伝承推進室)

震災遺構について、料金を徴収しているというところもございますが、我々としても素晴らしい震災遺構であると自負しておりますので、しっかりとプロモーションをして、多くの方に御来訪いただくよう取り組んでまいりたいと考えております。

(委員)

公共交通ネットワークについて、K P I のネットワーク充足率目標値100%に対して、実績値100%とありますが、これは補助金等の提供によって100%を維持することができたというところはあるかと思えます。それはそれで良いと考えますが、バスの運転手の確保やバス会社の経営状況等によっては、今後維持ができるのかなかなか難しいところであると思っており、例えば、ライドシェアであるとか、そういった面での目標、指標を作って入れていくのも必要なのかなと考えております。グループの中で議論した際に、委員の方より、その地域の共助によって移動を成立させているというような意見もございました。

(会長)

地域公共交通リデザイン実現会議というのが国で組まれており、地域公共交通をどう維持していけばよいのかという最新の方針が示されていました。

その中において、地方の場合は輸出資源の総動員というものが示されており、例えば介護送迎であったり、スクールバスであったり、それを一般客に開放していくということが示されておりましたので、官民が連携していくべきなのかと思います。その他、他のグループからも意見がありましたが、新たなモビリティを検証していくことも含めて、今後色々と検討していただければと思います。

(地域振興課)

総合計画前期基本計画に関しては、令和7年度までの計画になっておりますが、今後後期計画の策定作業に入るので、その中で検討して参りたいと考えております。

【第2章 第1節～第3節】

(委員)

以前、環境保全リーダー育成会議というものを行っていたと思うのですが、現在は行っていますでしょうか。

(環境課)

現在は環境保全リーダーの育成は行っておりません。

(委員)

川開き祭りにおいて、OBの方々が、片付け等終了後の処理をボランティアで行っているのですが、非常に大事なことだと考えているので、またぜひ復活して欲しく、要望させていただきます。

(環境課)

検討して参ります。

(委員)

持続可能な社会を目指すごみの減量化と資源循環の推進の中で、家庭系ごみのリサイクル率が目標値を下回っておりますが、もう少し、詳細を教えていただければと思います。

(廃棄物対策課)

リサイクルについて、パッカー車に回収される紙類、金属類及びガラス類があります。また、集団回収と言われる、町内会や子供会で行っているものがございます。その他カウントされるものには、ごみを焼却したものの中でスラグといって路盤材等に使用できる資材があり、以上の3種類となります。

近年一番大きい現象は、集団回収が資料に記載のとおり減少していることです。また、新聞や段ボールを朝集積所に出すのではなく、大きなスーパー等の店頭を持ち込むケースも増えております。

(委員)

安全安心な住環境都市機能の整備の推進について、ブロック塀の実績値が令和3年度及び4年度高い数字が出ていたのですが、令和5年度は64件と急に減少したのは限界という意味なのか、何か特別な事情があるのでしょうか。

(建築指導課)

令和3年度及び4年度については、令和3年に福島県沖地震がありまして、その影響で伸びたものと考えております。

令和5年度については、そこから多少時間を経たということで、関心が少し薄れたというところがあるのではないかと思います。

申請については、所有者の方の申請主義ですので、今後も申請が伸びるように努めて参りたいと考えております。

(委員)

プラスチックごみの分別回収をできる限り早く進めていただきたいと思います。

また、子どもころから、ごみの分別や回収についての教育を行っていただきたいと思います。

(廃棄物対策課)

プラスチックごみの分別回収につきましては、新聞報道等で御存じの方もいらっしゃると思いますが、現在、市内において収集も行っておらず、中間処理施設もないという状況です。今後、まずは中間処理施設の建設から着手するというところで、令和8年度以降の実施を目指しているところです。

分別に係る教育につきましては、当然廃棄物対策課も担当になるのですが、議会において教育委員会に対し、子どものうちから分別を教育しなければいけないのではないかという意見があり、教育委員会よりそのようなことも進めていくということで回答しております。

(委員)

「地球温暖化」に関心がある市民の割合というKPIについて、現在76.1%と出ておりますが、正直おそらくこれ以上上がることは無いのではないかと感じております。関心がある方は関心がある、無い方は無いので、この指標自体を、こういう被害があつて石巻市はそれにより大変なことが起きていてではどのようにすべきか、そのようなことが掴めるもう一歩先の指標にすることが、次の課題なのではないかと感じました。

(委員)

プラスチックの分別収集について、市内の一部モデル地区においてという記載がございますが、これはどこの地区で、何か月実施してデータを得たのか教えていただければと思います。

(廃棄物対策課)

実施したのは1回のみでございます。対象の地区については、向陽町及び大瓜において実施しております。向陽町は235世帯、大瓜は54世帯、分別してごみを出してい

いただきました。

その結果、向陽町においては、プラスチックごみの割合が1キロあたり7.55%、大瓜においては、3.99%となっております。

4 その他

政策企画課より、「委員評価表の提出について」及び「市民満足度調査について」の2点を説明。

(委員)

市民満足度調査について、61項目について回答時間が10分から15分程度と記載してありますが、このようなアンケートをなさる場合は、せめて20項目程度が限界なのではないかと感じます。

5分程度であれば、協力してくださる方が多いと思うのですが、15分となると、躊躇してしまう方もおられるのかと感じます。

1回で回答を得たいというのは分かるのですが、例えば第1回、第2回のような形にして、市民の民様が少しでも協力しやすいような方法になさった方がよろしいと思います。

(政策企画課)

令和元年度、今まさに皆様に評価いただいている総合計画前期基本計画を策定する際に、基礎資料とするため、同様の調査をさせていただいており、その際も60問程度の項目をお伺いしました。

そのため、5年が経った現在、今度は後期基本計画を策定するにあたって、前回の調査からどのような変化があったか参考にさせていただきたいという思いから、今回もこのような項目数となりました。

しかしお話しのとおり、通常のアンケート調査でもあまり項目が多いと御協力をいただきづらいところもあると思いますので、頂戴しました御意見は、今後このような調査をする際の参考とさせていただきたく思います。

(委員)

市役所の職員も市民ですので、市役所の職員からもアンケートを取った方がよろしいと思います。

(政策企画課)

市の職員も積極的にアンケートに回答したいと思います。

5 閉会あいさつ

(副会長)

長時間にわたり御苦勞様でした。3点お話しさせていただきたいと思います。

1点目は、このグループによる討議はまだ慣れていない部分ではありますが、庄子会長

と事務局が色々と工夫をして、どうしたら、この総合計画の評価を皆様に自分のものとして受け取ってもらえるかということを考えて、このような形にしたのですが、まだまだ消化不良の部分があるかと思います。ぜひ、これを生かしながら、それぞれの専門の委員の皆様の意見が、評価に反映出来たら良いなと考えております。

2点目は、資料や説明等、相当工夫されているなというふうに思いますが、早口で話すのではなく、言語を少なくする、文書を少なくするなど、まだまだ工夫の余地があるのではないかと考えております。資料を見て分かる、そのような資料をぜひ作っていくと、自分たちの事業がどのように進んでいるのかというのが、具体化すると思いますので、現在も工夫されておりますが、さらに工夫した資料を作り、説明の仕方についてもお願いしたいと考えております。

3点目は、庄子会長が開会のあいさつでお話しされていましたが、協働のまちづくりについて、まだまだ部分的に行政が中心となって市民の方々にやっていただくような形になっているのではないかと感じます。次期計画を立てるときは、本当に市民が主体的に動けるようにするためにはどうすれば良いかという、熟議徹底した議論が必要かなというふうに考えております。

本日は大変お疲れ様でございました。あと2回ございますので引き続きよろしくお願いいいたします。

石巻市総合計画推進会議委員人簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	出席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	欠席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	欠席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	出席（途中参加）
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	出席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	近藤 浩之	いしのまき農業協同組合	欠席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席（途中退席）
14	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	千葉 新一	河南地域まちづくり委員会	出席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	出席
21	花岡 徹	石巻金融団	出席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	欠席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	出席
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	芥藤 喜浩	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	出席
2	石川 佳洋	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鐺木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席

令和6年6月27日現在（敬称略）